

# 文化財建造物に使用された金箔に関する保存修復科学的な調査研究

東京文化財研究所 保存修復科学センター

伝統技術研究室

## 1、目的

現在日本国内における金箔生産は金沢が99%行っており、文化財建造物の修理にも多く使われている。しかし金沢における箔生産は明治期以降であり、江戸時代以前の箔生産の実態や使用には不明な点が多い。本研究では、文化財建造物における金箔の歴史的な使用状況のデータベースを作成するとともに、文献史料や旧塗装彩色材料が確認される実際の文化財建造物をモデルケースとして取り上げ、歴史的な金箔作成技術の変遷に関する基礎調査を実施する。この結果を、現状に即した塗装修理に使用する金箔作成に役立てる方法の確立を目指すことを主目的とする。

## 2、成果

### 1. 文化財建造物における金箔を使用した修理状況の悉皆調査

国宝の文化財建造物について、社寺・城郭・民家建造物にわけた修理報告書に記載されている金箔使用の状況を網羅的にピックアップして一覧表形式に纏めた。その結果、東照宮などの霊廟建造物や大寺院本堂などでの金箔の使用が高い実体が明らかになった(資料1)。

### 2. 文献史料や旧塗装彩色材料が確認される文化財建造物の金箔変遷と箔技術復元に関する基礎調査

文化財修理に使用された金箔に関する歴史的な調査は、江戸時代以前の金箔の材質・技法に関する具体的な文献史料は全く知られていないため、これまでほとんど行われておらず、不明な点が極めて多い。これは、江戸時代における金箔の生産は江戸幕府勘定奉行管轄の金座に繋がる江戸箔座が中心であり、これに京都・会津・仙台などが加わる程度の極めて限定された場所であったこと。これらの生産工房は現在では完全に途絶しているため、当時の記録が残っている可能性は少ないと考えられること。さらには、現在、我が国の金箔生産の99%は金沢が占めて金沢においても、金沢城二の丸御殿造営に伴い一次的に京都の技術が導入された程度であったため、当時の記録は調達や使用量に関する記録は僅かに見られるものが、材質や製法に繋がる記録は残されていないことなどによる。

このような状況のなか、日光東照宮では、三代将軍徳川家光による寛永13年(1636)の大造替以来、連綿と修理が行われており、その都度の修理に関する施工記録が日光奉行に報告されてきた。幸い日光東照宮にはこのような各年代の修理に関する記録の多くが残されており、そのなかには、修理材料や技法に関する詳細な記録も幾つか存在する。現在、日光東照宮の平成期修理に伴い、これら江戸時代の塗装彩色の修理記録に関する文献史料の基礎調査

を、日光社寺文化財保存会と東京文化財研究所が共同で進めており、そのなかに金箔の仕様を断片的ではあるがいくつか確認した(資料 2、表 1)。特に寛政期修理に伴う記述が多い『日光方 諸方本途』には、金箔の材質や製法に関する有益な参考となる内容として、①金箔の原材料となる金属材料には甲州金や元禄之金などが存在したこと、②金箔には、色よし・焦箔・常色・青色が存在し、値段は色よしが最も高く、焦箔がそれに続くこと、③金具の表層鍍金には色よしが使用され、塗装彩色には焦箔の使用頻度が高いこと、④このうちの三寸五分四方の焦箔を100枚打つに当たり、金属材料は金1両:銀2分、すなわち金:銀比率=約83%:17%であることなど、⑤金箔のインゴットとなる金属材料には「甲州金」を使用する場合もあったようであるが、この「甲州金」の金:銀配合比率も金含有比率が81~83%程度とされており、④野数値と一致する、などがわかった。

今年度の金箔技術進行研究所と東京文化財研究所の共同研究では、この仕様に則った配合比率に合わせた焦箔復元を行った。その結果、寛政期の金箔が塗装修理過程でも発見された東照宮透塀の資料と類似した色調であった。

## 報告

北野信彦「日光東照宮建造物に使用された江戸期の金箔に関する調査」平成 26 年度金沢金箔  
 伝統技術保存会視察研修会、日光社寺文化財保存会、2014.11.25 透塀の寛政期金箔(焦箔と想定)と各時期の金箔資料



日光東照宮における年代の異なる金箔資料



日光古文書から復元した寛政期の焦箔 ① (左端)



日光古文書から復元した寛政期の焦箔 ②



箔打ち用の和紙

# 日光社寺建造物の江戸期修理で用いられた金箔復元

## に関する調査

(文化財保存修復学会第 37 回大会要旨)

- ◎ 北野 信彦(東京文化財研究所)、佐藤 則武(日光社寺文化財保存会)、松村 謙一(金沢金箔伝統技術保存会)、市川 篤・北川 和夫(金沢箔技術振興研究所)

### 1.はじめに

現在、日光東照宮をはじめとする日光二社一寺の文化財建造物群では平成期修理が行われている。このうちの塗装修理では、旧塗装の掻き落とし・新規塗り直しの方法が取られているが、この旧塗装の掻き落とし作業に伴い寛永交替期をはじめとする各時期の漆塗装に金箔が貼られた修理痕跡が検出された。これら金箔の色相は、比較してみると建物の箇所と時期により異なる。今回これら日光社寺建造物の江戸期修理で用いられた金箔の分析調査と関連する文献史料調査、さらに今後の修理の参考とする目的で文献史料の配合比率に則った金箔復元と、江戸期の修理仕様に併せた塗装復元手板の作成実験を行ったので、その内容を報告する。

### 2.文献史料の調査

『日光方 諸方本途』などの日光社寺建造物群における修理記録の文献史料によると、江戸時代中期頃には色吉(いろよし)、焦(しょう)箔、常色、青箔もしくは青色の四種類の金箔が存在し、少なくとも寛政期頃の日光における塗装彩色修理では、色吉と焦箔の二種類が使用されていた。このうちの色吉は金具鍍金の上層(下層は銀箔と中層は焦箔)箔など、建物の中でも重要な箇所での使用に限定され、木彫極彩色や平彩色などの建造物の塗装彩色にはもっぱら三寸五分の焦箔が用いられたようである。さらにこの焦箔の原材料(インゴット)は、甲州金(金:銀の配合比率は金含有量が約 81~83%程度とされる)もしくは金 1 両に対して銀 2 分(金:銀の配合比率は 83%:17%)であったと記されていた。また金箔の仕様と直段をみると、塗装彩色修理には日光方、江戸方とともに狩野派も参画していたことがわかった。

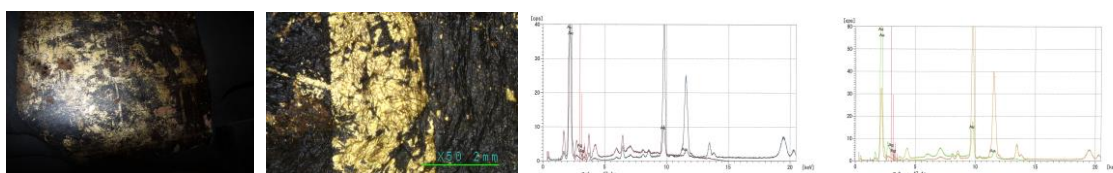
又九 狩野方直段 彩色技法	三寸五分			寄尺四方寄埵	同 江戸町 請方	同 日光町 請方
	焦箔(枚)	紺青(分)	朱(分)			
御影物絵落極彩色	14	5	4	10匁8分2厘1毛	10匁4分7厘	9匁9分2厘4毛
花鳥影物生彩色	5	6	3	5匁3分9厘9毛	4匁9分4厘1毛	4匁9分3厘
浪影物生彩色	5	5	3	5匁3分9厘9毛	4匁9分4厘1毛	5匁3分9厘9毛
龍象雲霧御影物生彩色牡丹唐草	5	5	3	5匁3分9厘9毛	5匁2分5厘9毛	4匁9分3厘
雲綱平彩色		3	3	5匁1分9厘2毛	4匁9分9厘8毛	4匁8分3厘
陸天井唐草平彩色		2	3	7匁8分4厘8毛	7匁1分4厘6毛	7匁3分1厘6毛
花窓影物極彩色		5	7	5匁9分7厘6毛	5匁8分3厘2毛	5匁9分7厘6毛
拵肘木胡桃形置上面	3	9	6	7匁8分2厘1毛	7匁7分7厘	7匁3分3厘2毛
紺青無地塗		6		1匁1分2厘6毛	1匁1分	1匁1分4厘
地紋影生彩色		6	7	5匁4分1厘8毛	4匁9分3厘6毛	4匁8分5厘
金箔平彩色	9	2	3	6匁3分6厘8毛	6匁2分3厘4毛	5匁8分1厘7毛
居紋置上相之金箔平彩色	5	9	3	4匁3分1厘	4匁1分2厘	4匁7厘5毛
面箔雲綱平彩色・面箔平彩色	2	8	3	7匁6分4厘2毛	6匁7分5厘	6匁9分6厘9毛
置上極彩色	9	3	3	9匁4分5毛	9匁1分7厘5毛	8匁5分7厘9毛
紺青地平彩色		3	3	5匁1分9厘2毛	4匁9分9厘8毛	4匁9分1厘3毛
雲綱平彩色		3(日光3分斗)	3(日光なし)	5匁1分9厘1毛	4匁9分9厘8毛	4匁9分1厘3毛
鏡模極彩色	9	4	3	11匁6分5厘9毛	11匁3分7厘8毛	11匁6厘7毛
黄土平彩色		3	3	5匁1分9厘2毛	4匁9分9厘8毛	4匁8分9厘3毛
無地金総箔	9			2匁3分6厘1毛	2匁7厘	2匁1分4厘3毛

御絵師 狩野宗秀  
狩野柳濱・狩野洞琳

狩野方直段より平均  
8分7厘引  
日光請方  
神山半龍・高橋左市

### 3.各年代の旧塗装材料の金箔調査と復元金箔手板の作成

本調査では、西側板壁面北間中央上部の漆箔板壁面から剥落した破片片に貼られた宝暦3年の金箔:これはオリジナル絵画である松葉彩色が剥落し、その下から目視観察された金箔、寛永造替期の黒漆層に貼られた金箔、さらには透塀修理の際に検出された寛政期頃の金箔の年代観が異なる三試料について、金色の色相比較と蛍光X線分析を実施した。まず目視による金の発色を比較すると、前二者は金の発色は良好であるが、試料3はそれとは明らかに異なる青みがかった青金色の発色であった。次に分析結果をみると、試料1,2からは強い金のピークとともにごく微量の銀(Ag)が検出された。一方、試料3は、金とともに前二者よりは強い銀が検出された。本試料群と金銀配合比が明確な比較標準試料である金箔試料との金色の色相や分析結果の比較検討を行った結果、試料1,2は今日の金箔3号色と同4号色のほぼ中間、試料3は色相と金・銀の検出検量線比較値ともに今回新たに文献史料の配合比率に併せて復元した焦箔と類似しており、今日の金箔仲色と三步色の中間に位置していた。以上の結果から、透塀の平彩色に使用された金箔は文献史料が記録する焦箔であり、陽明門の漆箔板壁面に貼られた金箔は寛永造替期、宝暦修理期ともに金発色が良好な色吉に相当する。

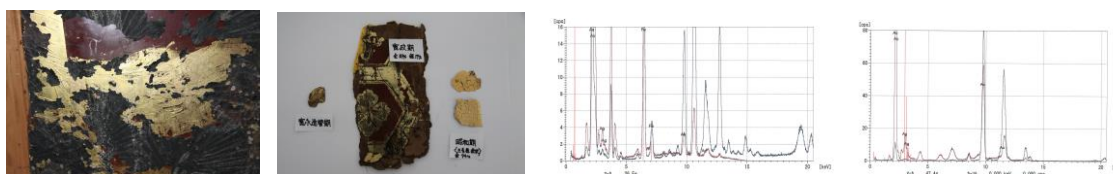


寛永造替期金箔痕跡

同 拡大

同 蛍光X分析結果

金箔4号色(金:銀=95:5)

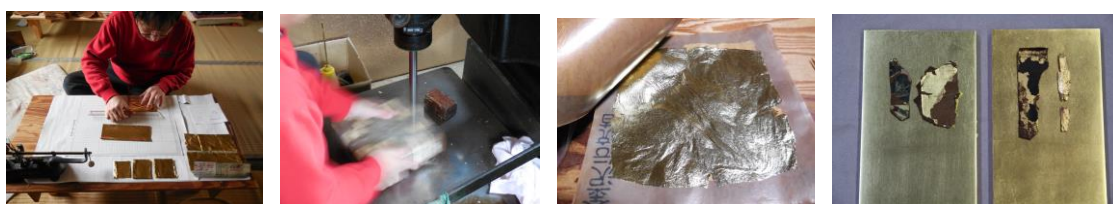


陽明門板壁面の宝暦期金箔

透塀の寛政期金箔

同 蛍光X線分析結果

復元焦箔(金:銀=83:17)



復元金箔[焦箔]の作成①

復元金箔[焦箔]の作成②

完成した復元金箔(焦箔)

復元漆箔手板と金箔資料の比較  
(焦箔と寛政金箔・三号色と寛永金箔)

### 4.まとめ

これまで日光二社一寺建造物の昭和期修理に伴う旧塗装彩色材料に関する分析や修理記録に関する調査は断片的に行われてきたが、両者を横断的に見据えた調査研究は少なかった。さらに江戸期の文献史料や分析結果から修理材料や仕様を念頭に置いた材料・技術の復元実験は初めての試みであり、江戸時代の金箔使用の実体を知る上での一定の成果を上げることができた。

本調査は、平成26~27年度の東京文化財研究所と金沢箔技術振興研究所による共同研究『文化財建造物に使用された金箔に関する保存修復科学的な調査研究』の成果の一部である。

(文献史料調査) 日光方 諸方本途

村上

箱

一、金箔 百枚ニ付 目方 金 三分五厘

但 三寸四分

一、銀箔 同 同 銀 四分

但 四寸

右 彼金之値ニ 生鉛金也

焦箔ハ 金壹兩ニ 銀貳分入ル

貳割 引

右之割 三寸五分

一、金壹兩ニ付 貳百八拾七枚出来

但 三寸四分 ニテ 貳百枚

一、金之値を見候本金三百本 占取〇〇候

一、四拾七本 色よし

一、四拾九本 焦箔

一、五拾四本 常色

一、六拾四本 青箔

右 甲 甲州金

一、五拾本 五分

但 甲州金之内 甲ハ 宜候 ニテ

右 金 元禄之金 ニテ

一、七拾六本 なり

辰年

西丸御修復之節

一、減金御金物箔研水相後焼返し三寸五分焦箔ニ相仕立手間

諸入用引

拾坪 ニ付 箔拾五枚貳分

但 五篇三篇平均之積り

後 松井伊賀

同年

西丸御修復之節

大広間虎之間遠侍間御彫物絵箔〇之方

一、千貳拾四坪壹合五ノ貳才

内 四拾七枚 大広間向

八百三拾坪壹合六<sup>ノ</sup>弍才 御彫物之分  
 百九拾三坪九合四<sup>ノ</sup>四才 御○冥 入捌之分  
 上納 三百枚 三寸五分 箔 揃 飯田八〇衛  
 代 五拾八匁壹分四毛 百枚ニ付 拾九匁三分八厘

西丸御修復之節

一、砂子切手間之残百枚ニ付 代銀壹匁五分 先達○ 御直段申上候 ○〇度御吟味ニテ  
 右之内六分ツツ 引方 ○〇渡〇〇候 依之此段申上候  
 三寸五分箔百枚ニ付 代銀九分 但 大石小石大山柀小山柀切通し迄平均  
 辰 十二月 山川喜右衛門

右 同断 御修復之節

一、焦箔 三寸五分 百枚ニ付 代 銀拾九匁三分八毛  
 一、色吉 同 同 代 銀貳拾壹匁六分弍厘  
 一、青色 同 同 代 銀拾六匁  
 一、焦箔 三寸八分 切積箔 同 代 銀貳拾六匁六分  
 一、色吉 同 同 代 銀貳拾九匁六分  
 一、青色 同 同 代 銀貳拾五匁  
 一、大焼紋金泥 揃目 壹目ニ付 代 銀四拾六匁  
 一、紋金泥 同 同 代 銀四拾三匁 但 三拾匁 ○  
 一、切箔大サ  
 一 大石、一 小石 壹歩四方値  
 一 大山柀、一 小山柀 五厘四方値  
 一 小みじん、一 みじん、一 のげ 細く箔大サ丈ニ 』

寛政元酉年十月十八日伺上

大奥新御殿具外御修復方渡相御買上

一、上焦四寸切〇箔 百枚 三拾五匁  
 一、上焦三寸砂子箔 百枚 拾五匁五分  
 一、上消紋金泥 壹匁ニ付 六拾五匁  
 一、粉緑青 壹匁目ニ付 六匁九分九厘  
 一、青貳番緑青 同 同 断  
 一、白貳番緑青 同 同 断  
 一、透煮皮 同 貳匁三分  
 一、粉〇らら 壹匁目 貳匁六分七厘  
 一、黄土 同 壹分  
 一、水干丹 同 五分

- 一、志おう 同 貳匁
- 一、大輪正〇子 壹枚 五匁貳分三厘
- 一、絵筆 壹〇 壹匁貳分三厘
- 一、木地絵ばけ 平物壹枚 拾枚 貳匁四分貳厘  
三寸 貳枚 貳寸五分 貳枚
- 一、 貳寸 同 壹寸五分 同  
壹寸 同
- 一、上和形〇 壹丁 九匁七分貳厘
- 一、羽ほうき 壹本 八分
- 一、大〇羽ほうき 壹本 壹匁八分
- 一、大焼金泥 壹〇ニ付 七拾五匁
- 一、青金泥 同 五拾匁
- 一、紫土 壹匁目 壹分

「一、上絵具御彩色之仕方

- 紺青之下ハ 青黛墨ニテ塗
- 緑青之下ハ 木之具ニテ塗
- 朱之下ハ 肉色ニテ塗
- 紫土之下ハ 黄土ニテ塗

「肉色合方

- 一、胡粉 百目
- 一、丹 五拾目
- 一、水 三合程
- 一、膠 九目

肉色之合方

- 一、五十以上 黄土 長吉丹 水干面胡粉 三色当分ニ〇 うす膠ニテ合
- 一、五十以下 丹胡粉 合方同断

「一、同 朱之雲縹下地被方 同断 肉色ニテ縁ヲ取 又 濃キ肉色ニテ縁ヲ立上  
塗ハ朱 都合五篇ニテ仕立ル事

一、同 緑青之雲縹下地被方 同断ニして 白緑ニテ縁ヲ立 又 木ノ具ニテ縁ヲ立上  
塗ハ緑青ニテ 都合五篇に仕立ル事

「 箔方

- 一、大彫物彩 三寸五分 焦箔 三拾六枚 壹人四方壹坪ニ付 代 貳匁貳分壹厘  
是ハ御〇御本社〇〇梁之龍 仁王御門 狛犬之彩 金形有之御彫物之分江直段相用御積リ
- 一、花鳥生彩御彫物 同 三拾五枚 同 代 壹匁八分五厘貳毛  
是ハ大小龍獅子子象模鼻彩 菊牡丹筆彫物 其外ハ 御彫物此直段相用音積リ
- 一、御唐戸附彫物 同 貳拾枚 同 代 壹匁六分貳厘
- 一、地紋御彫物 三寸五分 焦箔 貳拾枚 壹人四方壹坪ニ付 代 壹匁四分壹厘
- 一、御蔀 舞良戸 組物 面箔 几帳面蜜化粧裏板繪蛙股溜遲装金〇〇之彩 三寸五分 焦箔  
同 代 壹匁五分五厘 拾三枚
- 一、右 同断 貳篇箔 同 貳拾貳枚 代 貳匁壹厘
- 一、觀宝珠 風鈴 風鐸 之彩 同 拾五枚 同 代 壹匁貳分五厘
- 一、花窓格子 大燈口立縁 壹人四方壹坪ニ付 同 拾八枚 代 壹匁壹分六厘  
但 四分市油煙形組入有之〇ハ ふ相当ニ付 此度御金物彩江〇〇 申候事
- 一、御羽目御板御長押裏甲台〇上ヶ裏堅〇〇天井 同 貳篇押 同 代 九分壹厘
- 一、右同断 壹篇押 三寸五分 焦箔 拾壹枚 同 代 七分壹厘八毛  
但〇之〇ハ 直段割合相用御積リ
- 一、御納戸 片面ニ付 同 拾枚 同 代 九匁六厘八毛
- 一、瓦木口之彩 壹人四方壹坪ニ付 同 拾三枚 代 貳匁三分七厘  
同 銀壹分壹厘墨色繪之彩
- 一、礬水洗 灰汁洗 但 歩通押坪を引〇坪ニテ相立御積リ 同 代 貳分六厘  
但 少ニツツ 〇〇省之〇〇共ニ
- 一、綿巾 壹分以下ハ此直段相用壹分以上箔〇仕〇綿巾之〇ハ右〇坪江此直段相用御積リ  
同 代 三厘 是ハ御彫物彩地紋御彫物御蔀 舞良戸之彩御羽目御〇彩四口人ニ  
平均九割八分引四ッ割之平均直段
- 一、雜具代 歩通之坪 子坪ニ付 代 百貳拾貳匁貳分  
但 礬水洗灰汁洗綿巾〇ニハ 不相立御積リ

拾六口

金銀百四拾壹匁七分八毛 但箔押漆巾綿共ニ積リ込置

右者

御靈屋向御修復御用箔押方壹坪当御直段再惣引方御吟味之上書上御〇書面之〇御〇候

右御直段ニテ御請仕御〇〇之辺御箔押方〇分 入〇相仕立御用無生ニ相勤可申候

右 御〇〇之外〇 御庄御〇ハ 〇〇之直段割合を以 御入用御立〇〇下候以上

寛政八辰年 十月 入江喜兵衛 印

安永六〇年 御作事方本途日光御宮 御靈 御本坊向 御修復之〇古本途之内 書拔写置



一、箔押日雇手間飯米共二

一日一人二付 賃銀 五匁三分

一、箔押細工人一人二付 坪数押御覚

無地金	一日一人二付	七坪程
彫物	同断	式坪程
花窓格子組子油煙形同断	火燈口立○ 四分一彩	四坪程
御蔀 舞良戸組物	面箔化粧裏板ハ○ 面燭風鈴○○金○○彩	同断 式坪程
御唐戸附彫物	同断	三坪五合程
地紋彫物	同断	四坪程

文政度 御霊屋奥院

」



奈良	A-27	春日大社	春日大社本殿 第一殿より第四殿に至る四棟よりなる	文久3	4	国宝春日大社本社本殿四棟外九棟・中門・東御廊・西及び北御廊・捻廊・幣殿・直会殿・移殿・撰社若宮神社拜舎・細殿及び神楽殿 修理工事報告書	奈良県文化財保存事務所	奈良県教育委員会	昭和52	○	×	○	×	
	A-28	石上神宮	石上神宮拝殿	鎌倉前期	1	国宝 石上神宮拝殿 重要文化財同楼門修理工事報告書	奈良県文化財保存事務所	奈良県教育委員会	昭和62					
	A-29		石上神宮撰社出雲建雄神社拝殿	正安2	1									
	A-30	宇太水分神社	宇太水分神社本殿 第一殿より第三殿に至る三棟より	元応2	3									
島根	A-31	神魂神社	神魂神社本殿	天正11	1									
	A-32	出雲大社	出雲大社本殿	延享元	1									
岡山	A-33	吉備津神社	吉備津神社本殿及び拝殿	応永32	1	国宝・重要文化財 吉備津神社本殿・拝殿・北隋神門 修理工事報告書	国宝吉備津神社修理委員会	国宝吉備津神社修理委員会	昭和31	○	×	○	○	
広島	A-34	厳島神社	本社本殿、幣殿、拝殿	元亀2(本殿)、仁治	1									
	A-35		本社祓殿	仁治2	1									
	A-36		撰社客神社本殿、幣殿、拝殿	仁治2	1									
	A-37		撰社客神社祓殿	仁治2	1									
	A-38		東廻廊	永禄～慶長	1									
	A-39		西廻廊	永禄～慶長	1									
山口	A-40	住吉神社	住吉神社本殿	応安3	1									
香川	A-41	神谷神社	神谷神社本殿	建保7	1									
熊本	A-42	青井阿蘇神社	本殿	慶長15	1									
	A-43		廊	慶長15	1									
	A-44		幣殿	慶長15	1									
	A-45		拝殿	慶長16	1									
	A-46		楼門	慶長18	1									
大分	A-47	宇佐神宮	宇佐神宮本殿 第一殿より第三殿に至る三棟より	安政2～文久元	3	国宇佐神宮本殿修理工事報告書	財団法人文化財建造物保存技術協会	宇佐神宮	昭和60					
寺 院														
岩手	B-1	中尊寺	中尊寺金色堂	天治元	1	国宝中尊寺金色堂保存修理工事報告書	国宝中尊寺金色堂保存修理委員会	国宝中尊寺金色堂保存修理委員会	昭和43	○	○	○	○	
宮城	B-2	瑞巖寺	瑞巖寺本堂	慶長14	1	国宝・重要文化財瑞巖寺本堂・庫裏・廻廊・御成門・中門・門附太鼓塙。五大堂 修理工事報告書	国宝瑞巖寺第二期修理委員会	国宝中尊寺金色堂保存修理委員会	昭和33	○	×	○	○	
	B-3		瑞巖寺庫裏及び廊下	慶長14頃	1									
福島	B-4	願成寺	阿弥陀堂(白水阿弥陀堂)	永歴元										
栃木	B-5	輪王寺	輪王寺大猷院靈廟	承応2										
埼玉	B-6	歓喜院	聖天堂	延宝元	1	重要文化財歓喜院聖天堂保存修理工事報告書	公益財団法人文化財建造物保存技術協会	宗教法人歓喜院	平成23	○	○	○	○	
東京	B-7	正福寺	正福寺地藏堂	応永14	1	国宝正福寺地藏堂修理工事報告書	東村山市史編纂委員会	東村山市史編纂委員会	昭和43					
神奈川	B-8	円覚寺	円覚寺舍利殿	室町中期	1	国宝円覚寺舍利殿昭和修理報告書	国宝円覚寺舍利殿修理事務所	国宝円覚寺舍利殿修理事務所	昭和27					









奈良

	般若寺	般若寺楼門	文永頃										
	十輪院	十輪院本堂	鎌倉前期	1	十輪院本堂及び南門修理工事報告書	奈良県教育委員会文化財保存課	奈良県教育委員会文化財保存課	昭和31	×	×	×	×	
	圓成寺	春日堂	安貞										
		白山堂	安貞										
	長谷寺	長谷寺本堂	慶安3										
	榮山寺	榮山寺八角堂	天平宝字										
	長弓寺	長弓寺本堂	弘安2										
	当麻寺	当麻寺東塔	奈良										
		当麻寺西塔	平安前期										
		当麻寺本堂(曼荼羅堂)	永歴2	1	国宝当麻寺本堂修理工事報告書	奈良県教育委員会事務局文化財保存課	奈良県教育委員会事務局文化財保存課	昭和35	○	×	○	○	
	室生寺	室生寺五重塔	奈良末～平安初	1	国宝 室生寺五重塔(災害復旧)修理工事報告書	奈良県教育委員会事務局奈良県文化財保存事務所	奈良県教育委員会	平成12	○	×	○	×	
					国宝室生寺五重塔修理工事報告書	奈良県教育委員会事務局奈良県文化財保存事務所	奈良県教育委員会	昭和54					
		室生寺金堂	平安前期	1	国宝 室生寺金堂修理工事報告書	奈良県教育委員会事務局奈良県文化財保存事務所	奈良県教育委員会	平成3	×	×	×	×	
		室生寺本堂(灌頂堂)	延慶元	1	国宝室生寺本堂修理工事報告書	奈良県教育委員会事務局奈良県文化財保存事務所	奈良県教育委員会事務局奈良県文化財保存事務所	昭和41	×	×	×	×	





	金剛峰寺	金剛峰寺不動堂	鎌倉後期	1	国宝金剛峰寺不動堂修理工事報告書	財団法人高野山文化財保存会	財団法人高野山文化財保存会	昭和38					
					国宝 金剛峰寺不動堂 修理工事報告書	財団法人 和歌山県文化財センター	財団法人高野山文化財保存会	平成11	○	×	○	×	
		金剛三昧院	貞応2										
鳥取	三仏寺	三仏寺奥院(投入堂)	平安後期										
広島	不動院	不動院金堂	天文9										
	浄土寺	浄土寺多宝塔	元徳元		国宝並びに重要文化財浄土寺本堂、多宝塔、山門修理工事報告書	(財)文化財建造物保存技術協会	国宝浄土寺修理委員会	昭和48	×	×	×	×	
		浄土寺本堂	嘉暦2						×	×	×	×	
	向上寺	向上寺三重塔	永享4	1	国宝向上寺三重塔修理工事報告書	重要文化財向上寺三重塔修理委員会	重要文化財向上寺三重塔修理委員会	昭和38	○	×	×	○	
	明王院	明王院本堂	元応3	1	国宝明王院本堂修理工事報告書	国宝明王院本堂修理委員会	国宝明王院本堂修理委員会	昭和39	○	×	×	○	
明王院五重塔		貞和4	1	国宝明王院五重塔修理工事報告書	国宝明王院五重塔修理委員会	国宝明王院五重塔修理委員会	昭和37	○	○	○	○		
山口	功山寺	功山寺仏殿	元応2	1	国宝 功山寺仏殿修理工事報告書	財団法人 文化財建造物保存技術協会	功山寺	昭和60	×				
	瑠璃光寺	瑠璃光寺五重塔	嘉吉2										
香川	本山寺	本山寺本堂	正安2	1	国宝本山寺本堂修理工事報告書	国宝本山寺本堂修理工事委員会	国宝本山寺本堂修理工事委員会	昭和30	×	×	×	×	
愛媛	太山寺	太山寺本堂	嘉元3										
	石手寺	石手寺仁王門	文保2										
	大宝寺	大宝寺本堂	鎌倉前期										
高知	豊楽寺	豊楽寺薬師堂	仁平元頃										
長崎	崇福寺	崇福寺大雄宝殿	正保3	1	国宝 崇福寺大雄宝殿・第一峰門保存修理工事報告書	財団法人 文化財建造物保存技術協会	崇福寺	平成7	○	×	○	○	
		崇福寺第一峰門	寛永21	1					○	×	○	×	
大分	富貴寺	富貴寺大堂	平安後期										
城 郭													
長野	C-1	松本城	松本城天守	元和初頃		国宝 松本城	松本市教育委員会	松本市教育委員会	昭和41	×	×	×	×
	C-2		乾小天守	文禄元						×	×	×	×
	C-3		渡櫓	元和初頃						×	×	×	×
	C-4		辰巳附櫓	寛永						×	×	×	×
	C-5		月見櫓	寛永						×	×	×	×
愛知	C-6	犬山城	犬山城天守	慶長6	1	国宝 犬山城天守修理工事報告書	国宝犬山城天守修理委員会	国宝犬山城天守修理委員会	昭和40	×	×	×	×
滋賀	C-7	彦根城	彦根城天守	慶長11		国宝彦根城天守・附櫓及び多聞櫓修理工事報告書	滋賀県教育委員会	滋賀県教育委員会	昭和35	○	×	○	×
	C-8		附櫓及び多聞櫓	慶長11									

京都	C-9	二条城 二の丸御殿	遠待及び車寄	慶長7~8					○			
	C-10		式台	慶長7~8 及び寛永2								
	C-11		大広間	慶長7~8 及び寛永2								
	C-12		蘇鉄之間	慶長7~8 及び寛永2								
	C-13		黒書院(小広間)	慶長7~8 及び寛永2								
	C-14		白書院(御座の間)	慶長7~8 及び寛永2								
兵庫	C-15	姫路城	姫路城大天守	慶長13	国宝重要文化財 姫路城保存修理工事報告書Ⅰ (本文)(附図)	文化財保護委員会	文化財保護委員会	昭和40	○			
	C-16		姫路城西小天守	慶長14	国宝重要文化財 姫路城保存修理工事報告書Ⅱ (本文)(附図)	文化財保護委員会	文化財保護委員会	昭和40				
	C-17		姫路城乾小天守	慶長14	国宝重要文化財 姫路城保存修理工事報告書Ⅲ (本文)(附図上・下)	文化財保護委員会	文化財保護委員会	昭和40				
	C-18		姫路城東小天守	慶長14頃	国宝(建造物)姫路城防災施設事業 工事報告書	姫路市教育委員会文化部 姫路城管理事務所	姫路市	平成15				
	C-19		姫路城イ、ロ、ハ、ニの渡櫓	慶長14頃								

